



きこえとことばの教室便り

佐世保市立清水小学校 きこえとことばの教室 No. 11

音について

さて、前回の教室便りで、右の教室の写真を掲載しましたが、どこだかわかりました？

このお部屋は、くすの教室の中にあります。

聴く力を調べるところで、「**聴力測定室**」といいます。



このお部屋には、左のような機械があります。

この機械を使って聴く力を調べるのですよ。

しかし、聴く力を調べるためには、「音」そのものについて理解しておかなければなりません。



そこで、今回は、「音」について、少しお話ししますね。

音はdBとHzで性質を表します

さて、いきなりdB？ Hz?? これってなんだあ？ となりますよね。

音には、大きな音・小さな音・高い音・低い音が感覚的にあるのはわかりますよね。これを表している単位です。詳しくは…

dBとは、

「デシベル」という単位です。音の大きさを表しています。dBの数値が大きくなると音が大きくなります。



Hzとは、

「ヘルツ」という単位です。音の高い低いを表しています。Hzの数値が大きくなると、高い音ということになります。

この2つのdB（デシベル）、Hz（ヘルツ）を組み合わせると、どんな音がよく聴こえているかな？逆に聴く力が弱いところはどこかな？などを聴力測定室では、調べるのですよ。

もう少し分かりやすくdB（デシベル）、Hz（ヘルツ）を身近なもので表してみました。

dB「デシベル」：音の大きさ

身近な例

- 130デシベル ・耳が痛くなる
- 120デシベル ・ジェット機の爆音
- 110デシベル ・自動車のクラクション
- 100デシベル ・電車が通るときのガードの下
- 90デシベル ・犬の鳴き声・騒々しい工場の中・カラオケ
- 80デシベル ・電車の車内 ・せみの鳴き声
- 70デシベル ・騒々しい街頭・大きな声の会話
- 60デシベル ・普通の会話
- 50デシベル ・クーラー
- 40デシベル ・図書館・静かな会話
- 30デシベル ・ささやき声
- 20デシベル ・置時計の秒針の音
- 0デシベル ・通常人がきこえる最小の音

Hz「ヘルツ」：音の高い低い（詳しくは、1秒間の空気の波の振動回数）

身近な例（発音）

- 8000ヘルツ ~ 4000ヘルツ ・シ音、ザ行音、サ行音
- 4000ヘルツ ~ 3000ヘルツ ・カ行音、カ行音、ジ音、イ音
- 3000ヘルツ ~ 2000ヘルツ ・タ行音、ダ行音、ラ行音、エ音
- 2000ヘルツ ~ 1000ヘルツ ・パ行音、バ行音、マ行音、ア音
- 1000ヘルツ ~ 500ヘルツ ・ハ行音
- 500ヘルツ ~ 250ヘルツ ・オ音、ワ行音
- 250ヘルツ ~ 125ヘルツ ・バ行音、ダ行音、ウ音

例えば、8000Hz（ヘルツ）が120dB（デシベル）で聴こえるということは、高い音がジェット機ぐらいの音にならないと聞き取りにくいということですね。

なんとなく、「音」についてわかりましたか？

では、またの教室便りで(^O^)/

